

令和 5 年 5 月 6 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00877

研究課題名（和文）日本羊毛工業史研究の拠点形成を目指して：生産・雇用・会計制度の形成・発展過程

研究課題名（英文）The First Step toward a Center of Excellence in the Historical Study of Japanese Wool Industry: The Creation and Development Process of the Production, Employment and Account System

研究代表者

平野 恭平（Hirano, Kyohei）

神戸大学・経営学研究科・准教授

研究者番号：10509847

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 7,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ニッケ資料を用いて明治期から戦後の高度経済成長期までの日本毛織の経営実態を考察し、繊維産業史に新たな視点と知見をもたらすことを目指した。羊毛紡織経営の基礎的な側面である技術・生産システム、雇用システム、会計システムの各側面について、ニッケ資料を中心に分析・考察を行い、その実態と特徴を一定程度は明らかにすることができた。また、研究の進展とともに、ニッケ資料の整理も行うことができた。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による研究会開催や資料収集・調査に制限があったことから、3つの側面の個別研究の総合化、綿業や絹業との比較などについては、今後の課題として残すことになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

羊毛工業は、絹業・綿業・化学繊維工業に比べると経済的なインパクトこそ小さいが、官公需として制服や軍服などを供給してきたことや、日本人の洋装化に影響したことを考えると、決して軽視することのできない分野である。研究蓄積が厚いとされる繊維産業史の中で、比較的手薄な羊毛工業を取り上げ、その経営の実態を明らかにすることは、綿業と絹業に偏って形成された繊維産業史の認識とイメージに新たな視点をもたらすことになるものであり、学術的意義のある試みである。

研究成果の概要（英文）：This research examined the actual management of the Nihon Keori from the Meiji to high economic growth after World War II using the Nikke Archive, aiming to bring new perspectives and knowledge to the history of the Japanese textile industry. This research analyzed and discussed the basic aspects of wool spinning and weaving management, such as technology and production system, employment system, and accounting system, mainly using the Nikke Archive, and were able to clarify the actual management and characteristics. In addition, as this research progressed, Nikke Archive was organized. However, since there were restrictions on the holding of research meetings and the investigation of historical materials due to the spread of COVID-19, it was decided to leave the synthesis of the individual studies of the three aspects and the comparison with the cotton and silk industries as future issues to be dealt with.

研究分野：経営史

キーワード：羊毛工業史 繊維産業 日本毛織 経済史 経営史 会計史 技術史

1. 研究開始当初の背景

日本の繊維産業史は、経済史・経営史・技術史などの各分野で精力的に研究が進められてきたため、研究の蓄積は厚いと思われるが、確かに、綿業と絹業を対象とした研究は極めて多く、それらに比べれば少ないものの化学繊維工業を取り上げた研究も数多くみられる。しかしながら、羊毛工業については、伊東光太郎『日本羊毛工業論』(東洋経済新報社、1957年)や日本羊毛紡績会編『日本羊毛産業略史』(日本羊毛紡績会、1987年)などの産業史的な成果がある他に、羊毛輸入をめぐる貿易商社を対象とした経営史研究の他、いくつかの研究がみられるにすぎない。研究開始当時では、本格的に羊毛工業を正面から取り上げ、その全体像やダイナミズムを明らかにした研究や個別の羊毛紡績企業の経営実態を明らかにした研究は、ほぼ皆無に等しかったといえる状態であった。

羊毛工業は、絹業・綿業・化学繊維工業と比べて生産・貿易・雇用などで経済に及ぼすインパクトこそ小さいものの、官公需として制服や軍服などを供給してきたことや、日本人の洋装化に影響したことも考えれば、決して軽視することのできない分野である。それだけでも取り上げる学術的意義があるといえるが、研究蓄積の少ない羊毛工業を取り上げ、綿業や絹業と比較することによって、これまで綿業・絹業・化学繊維工業に偏って形成された繊維産業史の認識とイメージに何らかの新たな視点や知見を示せるのではないかと考えた。例えば、羊毛工業は、多くの女性労働者を抱えていたことや原料のほぼすべてを外国からの輸入に依存していたことでは綿紡績業との類似点がみられるが、原料価格や製品品質へのこだわりなど、産業のあり方を規定するような大きな違いも存在していた。繊維産業内で比較することによって、羊毛工業にみられる品質を優先した技術開発や生産システムの構築、それを支える女性労働者を中心とした労働力調達と労務管理の展開、原価計算をはじめとする会計制度の特徴が明確となり、それが繊維産業史の研究にさらなる深化をもたらすことになると考えた。

このような研究上の背景に加えて、本研究で主に利用する神戸大学大学院経営学研究科に寄託されていた日本毛織株式会社(以下、ニッケ資料)の膨大な企業資料(以下、ニッケ資料)の存在があった。日本毛織は、1896年12月に川西清兵衛によって神戸で設立され、1901年から厚地の紡毛織物であるラシャ、1912年から薄地の梳毛織物であるモスリンの生産を開始し、官公庁・学校・鉄道企業などの制服と制服生地が高いシェアを誇っており、現在でも羊毛紡績の有力企業として存続している。同社は、羊毛工業にとどまらず、戦間期にはレーヨン工業に進出するなど、一時的に化学繊維工業への多角化が進められたが、戦後になって頓挫し、高度経済成長期以降、繊維産業が斜陽化する中では不動産業への多角化を進め、1980年代以降は繊維事業よりも不動産事業の方が主力となった。日本の羊毛工業のリーディング・カンパニーである日本毛織を取り上げるとは、単に研究の少ない羊毛紡績企業の経営実態の解明にとどまらず、羊毛工業全体を明らかにすることにもつながり、繊維産業史の研究に大きな成果をもたらすとも考えた。

このニッケ資料は、2011年6月に日本毛織より神戸大学大学院経営学研究科に百年史編纂資料(文書箱73箱)と創業期資料(1箱)の寄託を受けたのを始めとして、同年10月には会計帳簿254冊、2014年12月には3トントラック1台分の膨大な文書記録と会計帳簿を追加で受け入れた。研究開始時までには資料の整理に着手しており、ニッケ資料の中でも創業期資料・生産設備関連史料・人事記録・会計帳簿などは極めて資料価値が高く、その内容も充実していることを確認していた。これらの資料を利用することによって、羊毛工業のリーディング・カンパニーである日本毛織の経営実態を明らかにすると同時に、羊毛工業を含めた繊維産業史の研究を深めることができると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、将来的な繊維産業内の比較を念頭に置いて、ニッケ資料を用いて明治期から戦後の高度経済成長期までの日本毛織の経営実態を考察し、研究蓄積が厚いとされる繊維産業史の中で比較的手薄な羊毛工業史の全体像とそこにみられる経営上の特徴を明らかにし、繊維産業史に新たな視点と知見をもたらすことを大きな目的としていた。綿業と絹業に偏って形成された繊維産業史の認識とイメージに羊毛工業から新たな視点をもたらすことは、学術的に意義のある挑戦であると考えた。この目的の達成のため、以下の研究の方法で述べるように、繊維産業史を研究する際に重要と考えられる技術・生産システム、雇用システム、会計システムという3つの点について、研究代表者・分担者の経済史・経営史・会計史・技術史・労働経済学などの複数の専門領域に基づいて資料の解読と分析を行い、総合的に研究に取り組むことにした。

また、本研究では、資料の解読と分析を行いながら、ニッケ資料の整理を進めること、日本毛織に残されている資料の調査・収集を行うことなども目的としていた。ニッケ資料の整理と追加的な資料収集は、本研究を効率的に進める上で不可欠であるだけでなく、日本の繊維産業史や羊毛工業史の研究のさらなる進展にも寄与することになると考えた。

3. 研究の方法

本研究では、すでに述べた通り、羊毛工業経営の基礎として技術・生産システム、雇用システム、会計システムの3つを総合して取り組むことを考えた。この3つの側面については、研究代表者・分担者の専門に基づいて役割分担を決めて行うことにしたが、それぞれの研究成果を総合して、将来的な綿業や絹業との比較にも備えることも視野に入れていた。具体的な役割分担については、以下の通りである。

日本毛織における技術・生産システムの考察

近代産業の移植の研究は数多くあるが、これまでの研究は綿業と絹業に偏っており、羊毛工業を取り上げた研究はほとんどみられなかった。本研究では、羊毛工業の移植過程を解明し、既存研究を相対化することによって、近代産業移植の研究の進展にも貢献できると考えた。また、本研究では、品質を重視したとされる羊毛工業の技術開発や生産システムの特徴を明らかにすることによって、コストやボリュームを重視した綿紡績業との比較を行い、繊維産業史の研究の進展にも貢献できると考えた。これらの点については、主に橋野と平野が担当することにした。

日本毛織における雇用システムの考察

従業員の雇用やキャリアパスの研究としては、繊維産業を含むいくつかの産業を対象とした研究がみられた。紡績企業も羊毛紡織企業も、女性労働者が生産現場を担い、その数も圧倒的に多かったことから、ブルーカラーの雇用・キャリアパス・管理の問題にアプローチすることにした。繊維産業の女性労働者とその管理については、すでに優れた研究成果もあったため、それらの成果に照らしながら、羊毛工業の雇用システムと労務管理の特徴を示せると考えた。この点については、主に市原・菅山が担当し、勇上が労働経済学の知見からサポートすることにした。

日本毛織における会計システムの考察

繊維産業に限ると、原価計算を含めた会計システムを取り上げた研究は、いくつか散見されるにとどまっていた。日本毛織に残されていた膨大な会計帳簿を駆使し、会計システムの確立と発展の過程を明らかにすることができれば、初期の会計システムや原価計算の成立をめぐる貴重な事例となるものと考えた。この点については、主に清水と角が担当することにした。

なお、本研究の目的の1つであるニッケ資料の整理については、同資料を主に管理していた平野を中心に進めていき、追加的な資料収集については、本研究のメンバーで協力しながら行うことにした。

4. 研究成果

本研究は、2018年度から2021年度までの4年間の計画であったが、途中、新型コロナウイルスの感染拡大のため、研究活動に様々な支障が生じたため、1年間延期し、2022年度に終了した。コロナ禍の中では研究会開催や資料収集などに制約があり、当初計画していたことをすべて実行することができなかったが、それでも下記のような研究成果を出すことができた。

2018年度は、本研究の準備としてニッケ資料の整理・調査を進めると同時に、すでに述べた役割分担に基づいて、各自で資料収集・解読・分析を行った。また、研究対象である日本毛織の協力によって印南・岐阜・一宮の工場・事業所見学を実施し、より深い歴史研究を行うために関連知識を学ぶ機会を設けることができた。2019年3月に開催された第72回紡績企業史研究会では、資料紹介的な性格をもった中間報告ではあったが、技術・生産システムの面で、平野が戦後の合成繊維研究会記録、雇用システムの面で、菅山が両大戦間期や戦後の人事記録、会計システムの面で、清水が創業期の会計帳簿などの紹介を行い、これらの資料を用いた研究の方向性を示すことができた。また、その際には、橋野が一宮の毛織物産地の歴史と現状についての発表も行った。2018年度中には、資料整理の中で、新たな資料の発見もあったため、その確認・整理にも着手し、次年度以降にも継続することにした。

2019年度も、引き続きニッケ資料の整理・調査を進めつつ、役割分担に基づいて、各自で資料の収集・解読・分析を行った。橋野は、羊毛工業の歴史的展開について、産業レベルの資料や統計データを収集・調査した。技術・生産システム面では、平野が両大戦間期のレーヨンと戦後の合成繊維にまつわる生産・技術関係の記録類を収集・分析した。羊毛紡織経営の特徴が、新しい繊維を取り上げる技術開発を規定する側面があったことが明らかになってきた。雇用システム面では、菅山と市原を中心に人事記録を用いてデータベースの構築を進めた。やや断片的な記録にはなっているが、貴重なブルーカラーの雇用とキャリアパスの実態が少しずつ明らかになってきた。会計システム面では、清水と角が、膨大な数の会計帳簿の整理を進め、研究に利用できる状態にしなが、創業期の帳簿を中心に分析を行った。このような研究の進展にともない清水・橋野・平野がいくつかの論文を発表することができた。なお、2019年度末には、新型コロナウイルスの感染拡大のため、予定していた研究会や調査を中止することになり、研究計画を変更し、期間を延長することにした。

2020年度は、コロナ禍の中での研究活動となったため、研究会の開催や資料の調査などが十分に行えず、神戸大学でのニッケ資料の整理・調査を中心とした活動になった。役割分担別にみ

れば、技術・生産システムの側面では、平野が両大戦間期のレーヨンから戦時期の代用繊維までの取り組みから羊毛工業の特徴を描き出そうと試みた。雇用システムの側面では、菅山と市原を中心に、引き続き人事記録の調査とデータベースの構築を進め、ブルーカラーの雇用とキャリアパスが少しずつ明らかになり、ホワイトカラーにも視野が広がりつつあった。会計システムの側面では、清水と角を中心に、会計帳簿の整理を継続しながら、創業期の帳簿の調査・分析を行った。各自でいくつかの論文などを発表することができたが、2020年12月には、これまでの研究成果を一度整理するため、経営史学会第56回全国大会で「近代日本羊毛工業の形成と展開：ニッケ資料にもとづく経営史・会計史・技術史の融合的研究」と題するパネル報告を行った。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大の影響によって、予定していた研究会や調査を中止せざるを得なかったため、研究計画の一部を変更し、期間を延長することにした。

2021年度は、本研究の最終年度であったが、依然として新型コロナウイルスの感染の影響が残っていたことに加えて、すでに前年度に経営史学会第56回全国大会で本研究の1つの到達点を示していたこともあり、研究成果を総合するための研究会はあえて開催せず、各自で研究成果を発表することに努めた。しかし、これまでの研究成果を総合化することや、雇用システムや会計システムの研究に必要な追加的な資料を収集・調査することが必要であったため、研究計画を変更し、期間を延長した。役割分担に基づく研究は、前年度までとほぼ同様に展開したが、本研究の総括として、平野が簡単な論稿をまとめることができた。

以上、日本毛織の技術・生産システム、雇用システム、会計システムについては、それぞれニッケ資料を中心に用いながら、羊毛工業経営の実態と特徴を一定程度は明らかにすることができた。しかしながら、コロナ禍での研究会開催や資料収集に制限があったことから、技術・生産システムでは近代産業の移植を十分に検討・考察することができず、各自の研究の総合化、綿業や絹業との比較などについても十分に行うことができなかった。これらの点については、今後の課題として取り上げていくことにしたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 平野恭平	4. 巻 第753号
2. 論文標題 近代日本の羊毛工業をめぐる経営史・会計史・技術史研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 31-34頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恭平	4. 巻 第48巻第1号
2. 論文標題 化学産業・化学企業をめぐる経営史研究 研究動向と若干の論点をめぐって	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 化学史研究	6. 最初と最後の頁 14-23頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恭平	4. 巻 2023年度版
2. 論文標題 経営史の学び方	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経営学の歩き方	6. 最初と最後の頁 65-70頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Caruana-Galizia Paul, Hashino Tomoko, and Schulze Max-Stephan	4. 巻 Vol.1
2. 論文標題 Underlying Sources of Growth: First and Second Nature Geography	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Cambridge Economic History of the Modern World	6. 最初と最後の頁 339-368頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1017/9781316671566.016	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 橋野知子	4. 巻 2023年度版
2. 論文標題 近現代日本経済史からグローバル・エコノミック・ヒストリーへ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経済学の歩き方	6. 最初と最後の頁 103-106頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水泰洋	4. 巻 第82巻第1号
2. 論文標題 会計知識と会計記録の様式：西洋式簿記の移入と和式帳合との混交	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 産業経理	6. 最初と最後の頁 46-55頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 赤木邦江・勇上和史	4. 巻 第18巻第1号
2. 論文標題 転職による適職選択行動 初職から適職へのマッチングプロセスの実証分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済政策ジャーナル	6. 最初と最後の頁 1-16頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34471/jeps.18.1_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 李慧慧・田中喜行・勇上和史	4. 巻 第227巻第1号
2. 論文標題 日本における仕事の安定性と雇用区分の関係 認識と現実	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国民経済雑誌	6. 最初と最後の頁 65-81頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐野晋平・宮昊君・勇上和史	4. 巻 第227巻第1号
2. 論文標題 有期労働契約の経済分析：サーベイ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国民経済雑誌	6. 最初と最後の頁 83-99頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恭平	4. 巻 第23巻第1号
2. 論文標題 戦前・戦時期の日本毛織による羊毛代替繊維の追求 人絹糸・スフから牛乳カゼイン再生蛋白繊維まで	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 技術と文明	6. 最初と最後の頁 25-44頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.57381/jshit.23.1_25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恭平	4. 巻 2020年度版
2. 論文標題 特別寄稿 川西清兵衛翁の素顔 ニッケ創業者の企業家としての先見性と情熱	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ニッケグループ統合報告書	6. 最初と最後の頁 43-44頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Ichihara	4. 巻 Vol.37
2. 論文標題 Japanese Companies' In-house Education in the Post-War Period: Educational Qualification and Personnel Management	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Research in Business History	6. 最初と最後の頁 61-83頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5029/jrbh.37.61	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恭平	4. 巻 第23号
2. 論文標題 戦後の羊毛紡織企業の合成繊維混紡への進出プロセス - 日本毛織の合成繊維混紡試験の検討を中心として -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済史研究	6. 最初と最後の頁 147-179頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24712/keizaisikenkyu.23.0_147	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋野知子	4. 巻 第221巻第1号
2. 論文標題 先生と経済史と私	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国民経済雑誌	6. 最初と最後の頁 85-91頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/E0041962	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tomoko Hashino and Keijiro Otsuka	4. 巻 Vol.60, No.1
2. 論文標題 The Rise and Fall of Industrialisation: The Case of a Silk Weaving District in Modern Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Australian Economic History Review	6. 最初と最後の頁 46-72頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/aehr.12182	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水泰洋	4. 巻 第197巻第1号
2. 論文標題 対話する会計史研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 會計	6. 最初と最後の頁 29-40頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平野恭平	4. 巻 第218巻第4号
2. 論文標題 戦時期の繊維産業での代用繊維利用に関する一考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国民経済雑誌	6. 最初と最後の頁 19-29頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/E0041646	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinji Sugayama	4. 巻 Vol.4, No.2
2. 論文標題 Organizing Rural-urban Migration of Young Workers: Roles of Labor Market Institutions in Postwar Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Journal of German and European Studies	6. 最初と最後の頁 1-21頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40856-019-0039-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 市原博	4. 巻 第84巻第4号
2. 論文標題 戦後日立工場における技術形成と技術者の職務行動・キャリア	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 423-444頁
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件(うち招待講演 0件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Yuta Sumi, Takashi Kitaura, Jumpei Yamada, and Yasuhiro Shimizu
2. 発表標題 Corporate Depreciation Practice in the Early 20th Century in Japan: A Comparative Analysis of the Textile Industry
3. 学会等名 1st Accounting History Research Workshop
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 市原博
2. 発表標題 日本労働史から見た関口定一の研究
3. 学会等名 経営史学会関東部会・社会政策学会労働史部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 勇上和史・風神佐知子・平尾智隆・佐藤一磨
2. 発表標題 創造的回顧 日本の人事労務研究のレビュー研究会 経済学の視点から
3. 学会等名 日本労務学会2021年度全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平野恭平
2. 発表標題 日本毛織における羊毛紡織技術の形成と化学繊維の取り組み
3. 学会等名 経営史学会第56回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅山真次
2. 発表標題 日本毛織におけるホワイトカラーの形成
3. 学会等名 経営史学会第56回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 角裕太
2. 発表標題 近代日本羊毛工業の形成と展開：ニッケ資料にもとづく経営史・会計史・技術史の融合的研究 コメント：企業史・会計史の立場から
3. 学会等名 経営史学会第56回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橋野知子
2. 発表標題 近代日本における羊毛工業研究の可能性と日本毛織
3. 学会等名 経営史学会第56回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Tomoko Hashino
2. 発表標題 From Lyon to Kyoto: Modernization of a Traditional Silk-weaving District in Japan, 1887-1929
3. 学会等名 Centuries of Cloth: Historical Approaches to the Study of Textiles (Economic History Society and Royal Historical Society) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 清水泰洋
2. 発表標題 日本毛織における会計記録システムの展開
3. 学会等名 経営史学会第56回全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平野恭平
2. 発表標題 戦前の羊毛紡織企業のレーヨン事業への進出と原毛調達 日本毛織の事例を中心に
3. 学会等名 経営史学会第23回東北ワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平野恭平
2. 発表標題 日本毛織新繊維研究会記録の検討
3. 学会等名 第72回紡績企業史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shinji Sugayama
2. 発表標題 The Salaried Employee's World and the Worker's World
3. 学会等名 32nd International Conference on Business History (Fuji Conference) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菅山真次
2. 発表標題 日本毛織におけるホワイトカラー人材の形成：戦前・戦後の社員個票型データの分析を通して
3. 学会等名 第72回紡績企業史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 橋野知子
2. 発表標題 一宮産地における毛織物産業の現状
3. 学会等名 第72回紡績企業史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水泰洋
2. 発表標題 草創期日本毛織の会計帳簿
3. 学会等名 第72回紡績企業史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroshi Ichihara
2. 発表標題 Job Behavior, Technological Capability Development and Job Carriers of Researchers and Engineers in Hitachi, Ltd. after the Second World War
3. 学会等名 32nd International Conference on Business History (Fuji Conference) (国際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 市原博	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 334
3. 書名 近代日本の技術者と人材形成・人事管理	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	菅山 真次 (Sugayama Shinji) (00202127)	東北学院大学・経営学部・教授 (31302)	
研究分担者	角 裕太 (Sumi Yuta) (00824351)	広島経済大学・経営学部・助教 (35402)	
研究分担者	市原 博 (Ichihara Hiroshi) (30168322)	獨協大学・経済学部・教授 (32406)	
研究分担者	橋野 知子 (Hashino Tomoko) (30305411)	神戸大学・経済学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	清水 泰洋 (Shimizu Yasuhiro) (80324903)	神戸大学・経営学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	勇上 和史 (Yugami Kazufumi) (90457036)	神戸大学・経済学研究科・教授 (14501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------